

# 津波避難アナウンスメントのありかたに関する考察 —情報の受信者を対象とした調査から—

福本晋悟<sup>1</sup>・近藤誠司<sup>2</sup>

<sup>1</sup>株式会社毎日放送 アナウンサー室アナウンス部

<sup>2</sup>関西大学准教授 社会安全学部安全マネジメント学科

## 1. はじめに

東日本大震災では、大津波警報などの危険を知らせる情報が、津波到達よりも前に伝達されていたにもかかわらず、多くの住民が津波の犠牲となった。

先行研究の中には、せっかく迅速に届いたはずの情報が切迫性が欠如していたことを問題視するものがある。たとえば、「リアリティの共同構築」という観点からテレビ報道の内容分析をおこなった研究では、津波が到達するまでの猶予時間においては「東京中心的な情報」が優勢であって、渦中の人々にとってはリアリティが欠如した内容であったと指摘している(近藤ほか,2012)。また、NHKの全国放送のスタジオキャスターとして津波避難の呼びかけを担ったニュースキャスター本人が、警報が発表されてから沿岸部に津波が襲来し被害が及ぶまでの約30分間を「当事者研究」のアプローチで振り返った研究でも、同様の課題を指摘している(横尾ほか,2017)。

一方で、テレビやラジオなど放送系のメディアの呼びかけによって避難を決意した住民もいたことをふまえると、より効果的な津波避難のアナウンスメントのありかたを検討しておく必要があるだろう。そして確かに、キャスターコメント(呼びかけ文言のこと、後述する)に関しては各組織において、独自の工夫や改善策が施されている。しかし、新たに提起されたアナウンスメントのありかたを客観的に評価した調査や研究が見当たらない。メディア全般を見渡しても「キャスターの力量しだい」という曖昧模糊としたところがある。そこで本研究では、議論の礎となるデータを構築するため、情報の受信者と発信者の双方を対象とした定量的調査と定性的調査をおこなうことにした。このうち今回の発表では、おもに受信者側の調査結果を報告する。

## 2. キャスターコメントとは

キャスターコメントとは、視聴者・聴取者に避難などの適切な行動を呼びかけることを目的に、これまでの災害の経験を踏まえ、放送事業者の組織内で検討を重ねられた例文のことである。放送局内では、それらのキャスターコメントまとめた冊子や予定稿を作成して、ニュー

スキャスターなどの出演者が緊急時にすぐに読めるようにスタジオに常置するようにしている。これは、視聴者・聴取者に呼びかける内容がキャスターの経験やスキルによってばらついてしまう危険を防ぐためである。

災害初動時の特別(緊急)番組において、取材記者が作成した原稿が手元に届いていない段階であっても、キャスターは、気象庁の観測データなどの最新情報を瞬時に織り交ぜ、視聴者・聴取者に対して危機を回避する行動を促す一減災報道をする一ことになっている。

## 3. 調査の対象と手法

2012年や2016年の津波警報発表時の特別番組では、東日本大震災の検証をふまえた新しいキャスターコメントが次々と登場した。本研究ではそれらの参考にして、まず独自の「サンプルキャスターコメント」を作成した。文言は以下のとおりである。

大津波警報が岩手県・宮城県・福島県に発表されました。東日本大震災クラスの巨大な津波がきます。非常事態です。今すぐ逃げてください。今避難すべき場所は、高台や津波避難ビル、津波避難タワーなど高いところです。急いで逃げること！ただちに避難！命を守るために、ためらわずに避難をしてください。この放送を聴いたあなたが、まわりにも声をかけながら率先して避難をしてください。

次にこのコメントを、放送スタジオを借りて切迫感のある強い口調で第1著者が読み上げて録音し、独自の「サンプル音源」CDを作成した。調査実施時には、このCDを調査協力者に聴いてもらい、その受け止め方を分析することにした。

## 4. 調査の結果概要

### (1) 大学生を対象にしたアンケート調査

非報道従事者で、かつ津波避難未経験者の代表サンプルとして、関西大学社会安全学部で「災害ジャーナリズム論」を受講する大学生を対象に調査を実施することに

した(n=284)。約88%が2年次生で占められているため、一般的な学生よりも知識はあるが、専門的な技術や経験は無いグループであると考えられる。調査実施場所は、講義がおこなわれた大型ホールである。

共通のインストラクションを与えたのち、サンプル音源CDを二度繰り返し場内で放送して、受け止め方を質問紙で調査した。質問項目は、サンプル音源のコメントを10パーツに分解して、それぞれのパーツの評価(良し悪し)を尋ねる内容とした。5段階評価で回答してもらい、集計の際に、「強くそう思う」や「とてもよい」を最高評価の5点とし、反対に「まったくそう思わない」と「まったくよくない」を最低評価の1点として換算した。

その結果、まず全般的な傾向として、いずれの設問も評価は高く、5点と4点の評価が65%以上を占めていた。

相対的に評価が低かったのは「大津波警報」という言葉遣いで、全体の13%(38人)が「よくない」としていた。標準偏差は0.96で、これは全項目の中で2番目に高い値である。したがって、言葉遣いの適否の評価がばらついていたことがわかった。その他、「非常事態です」や「急いで逃げること!」といった言葉遣いなども相対的にみると評価は高くなかった。

一方で、学生の中で最も高い評価を受けていた言葉遣いは、「今すぐ逃げてください」であった。「とてもよい」が最多となっており、標準偏差は0.80と全体の2番目に低い値であったことから、ごくシンプルではあるが幅広い人にリーチしやすい言葉遣いである可能性がある。

## (2) 津波避難経験者への半構造化インタビュー調査

東日本大震災において、市町村別でみれば最大の犠牲者数となった宮城県石巻市において、「あのとき、津波浸水地域となった場所にいた」人で、かつ「大津波警報を放送または防災行政無線で聴いた」人、合計10人を対象として、津波避難アナウンスメントのサンプル音源を聞いてもらい、受け止め方を確かめる調査を実施した。

質問紙の記入方式ではなく、設問項目(10のパーツ)をひとつひとつ尋ね(「〇〇というコメントは心に響きましたか?」)、途中で思いついたことがあれば自由に回答してもらおう半構造化インタビュー調査を実施した。

なお、サンプル音源は、日常の放送受信環境を想定して、調査協力者10人とも、同じラジオ付CDプレイヤーを使用し、音量は最大60.9dBに設定して、約90cm離れたところで聞いてもらった。特徴的な結果を抜粋して、以下に概括する。

### a) 評価が高かった「今すぐ逃げてください」

大学生を対象とする調査結果と酷似して高い評価を受けたのは、「今すぐ逃げてください」という言葉遣いだった。10人中9人がポジティブな回答で、具体的には、「やっぱり心にきますね」、「命でんでんこ」という考えでいいと思う、「これ、いいですね。『早く、早く』って、追い立てるような形もいいのかなと思います」などの意見を採取することができた。

### b) 津波避難経験者の評価が高い「大津波警報」

一方で、大学生への調査では適否の回答傾向がばらつき相対的に評価が低かった「大津波警報」という言葉遣いに関しては、津波避難経験者を対象とする調査では、およそ逆向きの結果が得られた。採取した意見のなかには、「大津波ですよ。それ以上の言葉はない。これ以上の表現がないんじゃないですか」、「大津波警報は前にも聞いていますし、『ああ東日本クラスだな』と分かりますね」、「津波警報じゃなくて大津波となると、やっぱり急がないといけないなって思いますね」など、10人中8人がポジティブな評価となっていた。

## 5. 課題と展望

サンプルの代表性や調査環境の制約など限界を含んだ調査であるため慎重にデータを読み解く必要があるが、情報受信者の経験や立場によって、受け止め方に違いがあることが見出された。データを蓄積すればバッドコメント一言わない方がよい言葉一を抽出することができるかもしれない。また、たとえば体言止めに関しては受け止め方に幅があつて、奏功するかどうかは不確実であることもわかった。

もちろん本報告では、情報の受け手側の調査にしばっているため、今後さらなる検討が必要である。現在、東日本大震災の大津波警報発表時に実際に避難を呼びかけたキャスターを対象とした調査を進めている。情報受信者と発信者、これら複数のアングルから調査結果を立体的に考察することによって、キャスターコメントの受け止め方のギャップなどを明らかにできる可能性があると考えている。

**謝辞:** 本研究は「放送文化基金」(H29s) および「高橋信三記念放送文化振興基金」(H30s) の助成を受けて実施しています。調査にご協力頂きました皆様にこの場を借りてあらためて御礼申し上げます。

## 参考文献

- 近藤誠司・矢守克也・奥村与志弘・李勇昕(2012) 東日本大震災の津波来襲時における社会的なリアリティの構築過程に関する一考察 ~NHKの緊急報道を題材とした内容分析~, 災害情報, 第10巻, pp.77-90.
- 横尾泰輔・矢守克也(2017) 東日本大震災の初動報道に関する当事者分析: キャスター自身による分析・調査と実践的考察, 災害情報, 第15巻, pp.149-159.
- NHK放送文化研究所 福長秀彦(2013) 津波警報・NHKが強い口調で避難呼びかけ, (参照年月日: 2019.8.20)  
<https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/research/focus/545.html>
- NHK放送文化研究所 山口勝(2017) 4年ぶりの津波警報, NHKが強い口調で避難"呼びかけ", (参照年月日: 2019.8.20)  
[https://www.nhk.or.jp/bunken/research/focus/f20170101\\_2.html](https://www.nhk.or.jp/bunken/research/focus/f20170101_2.html)